

暖かいオンドル、暖かい心 イ・キョンヒ（韓国）

ペチカの中の燃える花火、コタツと甘い蜜柑、冬を暖かく送るかたちは国によりさまざまです。そうすると、韓国の冬の部屋はどんなかたちでしょうか?暖かい部屋に座って、いっしょに話を交わす姿です。韓国語ではその部屋の形態を「オンドル」と呼びます。暖かい石という意味であり、部屋を作る時、石で床底を作ってその石を暖める方式です。火を起こせば、暖かくなった石が部屋の底を暖かくしてくれます。屋外に出ている煙突は、火を起こした時、煙気が外に出るために設置します。古来より生活様式が坐食である韓国人に、暖かい「オンドル」の床底は必要不可欠でした。暖かい空気は上方へ行きながら部屋全体を暖かくしてくれます。昔のご先祖の知恵を感じることができる部分です。

韓国のオンドルの部屋は、他の国々の家屋構造とは異なる暖房装置となっています。それは「もろともに」という特徴として表されます。例えば、西洋のペチカは暖かい火を中心に人々は集まります。しかし、床底の暖かい韓国式は、人々がどの場所にも自然に集まって座ります。

また、伝統方式で部屋を暖かくする場合、構造上、暖かい部分と少し冷たい部分ができることとなります。一番暖かい部分を「上席」、ちょっと暖かい部分を「下席」と呼びます。古くから一番暖かい所に目上の人が座り、お客さんがおみえになった場合にも一番暖かい上席を用意します。儒教の精神をもつ韓国人の暖かい心を知ることができます。

現在は簡単な方法で床底を暖かくするため、オンドルの原理は変わりましたが、韓国人の一般的な家は、皆床底が暖かいです。今は全体が一律に暖かいので上席と下席の区別はありませんが、昔方式の上席と下席の仕分けがある「オンドル」を体験するためには、地方に残されている伝統家屋（韓屋村）を訪ねると良いでしょう。

2009年冬、友達と一緒に国内旅行をしました。

主題は韓屋を体験すること。ソウルから車で4時間をかけて全州に到着しました。全州には8万坪位の広さにある900余軒のすべての家が伝統韓屋という「韓屋村」と呼ばれる所があります。一般的な観光地として韓国人もたくさん訪れます。そこは、古い韓屋を補修し、伝統技法で韓屋を建て直して構成された美しい村です。また、伝統体験ができる場所が多いことでも有名です。伝統婚礼や韓紙工芸、陶磁器工芸、伝統食べ物作りなどを体験するのに非常に良い場所です。

今回、私たちの一番の旅行目的は、韓屋村にある韓屋体験家屋でした。朝鮮時代の家屋をそのまま保存して宿泊施設として使うので、過去に戻ったような気持ちになりました。

寒い冬でも部屋に入ったら、暖かい床底が身も心も暖めてくれます。そのようにして、私たちはいっしょに夜おそくまで話しを交わし続けました。

翌日も朝食の時、昨晚暖かい部屋で話を交わしたおかげで、もっと親しくなれたような気がしました。

どうして韓国人たちはこんなにまで暖かい床底が好きでしょうか？

理由を考えて見れば、さまざまなことが思いあたりますが、一番暖かい所で、「一緒に」を感じることができるからだと思います。誰でも一度オンドル方式を体験したら、その暖かい床底の魅力のとりこになるでしょう。韓国人たちの暖かい心は、みんなが一緒にになれるオンドルから生まれたとはいえないでしょうか？